

## 成田市インターネット市政モニター アンケート集計・分析結果（第32回）

第32回のテーマは「応急手当の普及啓発についてのアンケート」でした。

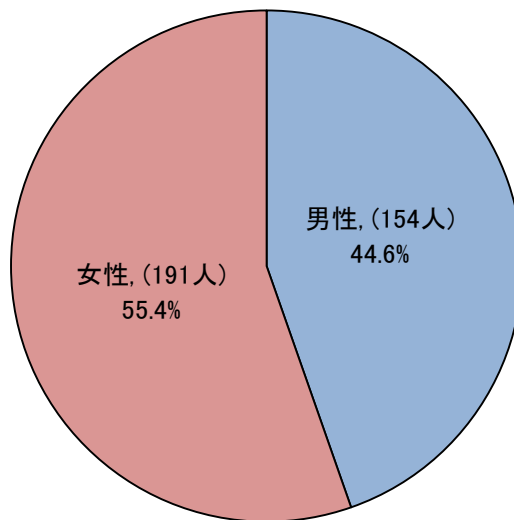
登録者数：513人

実施期間：平成28年9月2日(金)～9月12日(月)

回答者数（回答率）：345人（67.3%）

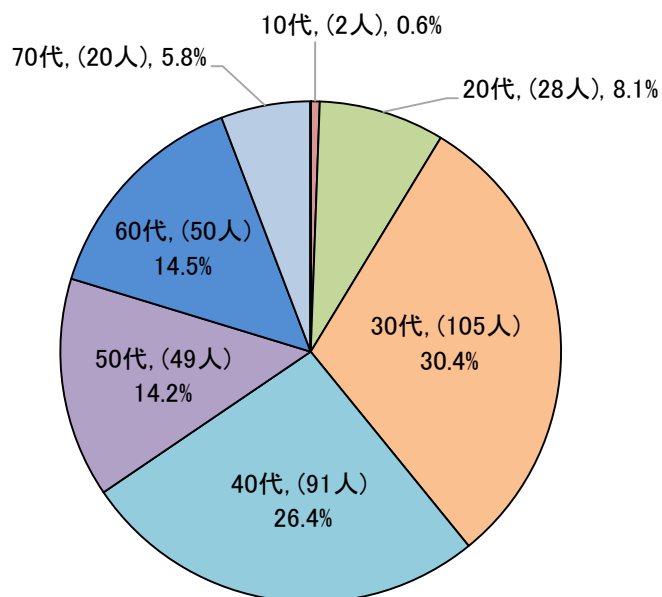
性別

(n=345)



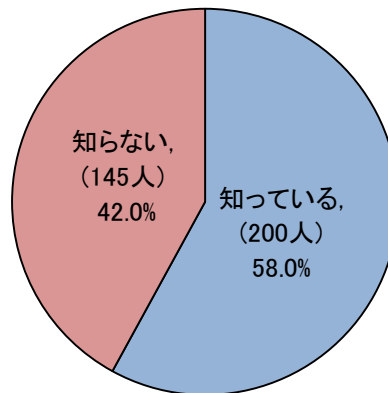
年代

(n=345)

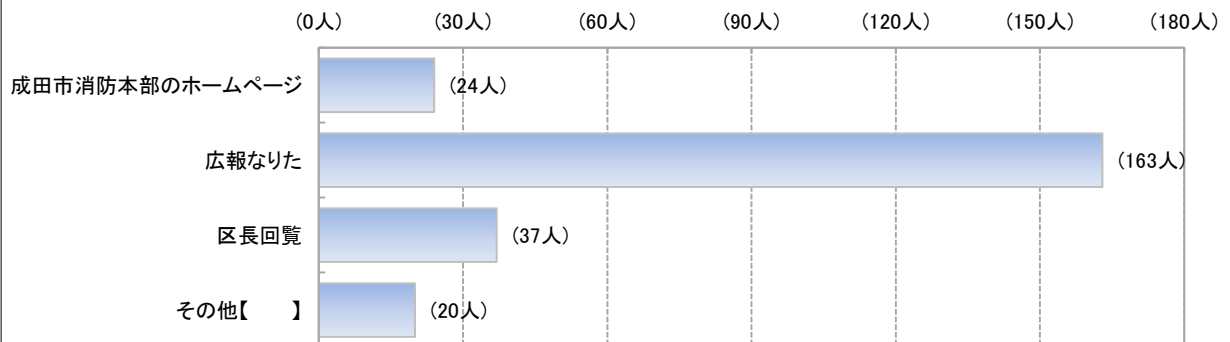


[Q1]成田市消防本部で救命講習を開催していることを知っていますか。  
(単一選択)

(n=345)



[Q2]救命講習の開催は何で知りましたか。(複数選択可)  
(n=200)

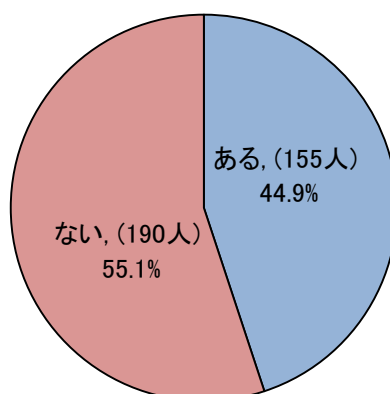


「その他」として寄せられた主な意見は次のとおりです。

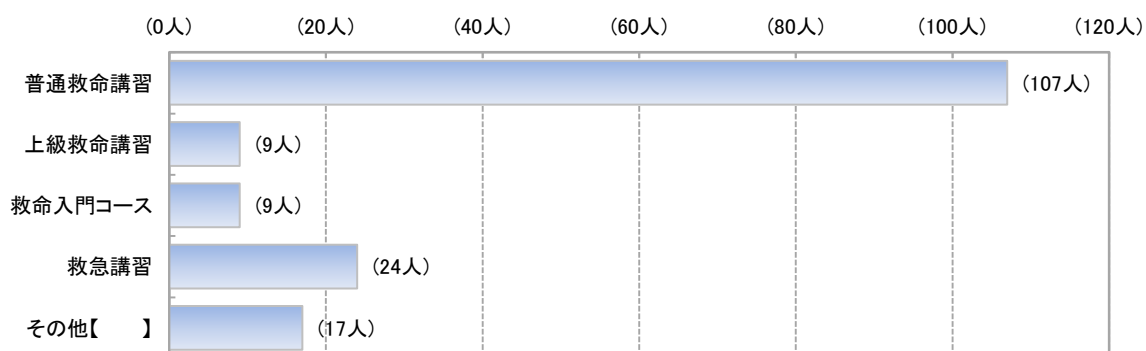
- ・会社
- ・友人
- ・家族
- ・消防行事

○救命講習を開催していることを知っている方が 58.0%、その中でも「告知なりた」をご覧になって知った方が最も多かった。様々なツールを使用し告知をおこなっていきます。

[Q3]救命講習を受講したことがありますか。(単一選択)  
(n=345)



[Q4]受講したことがある救命講習を選んでください。(複数選択可)  
(n=155)

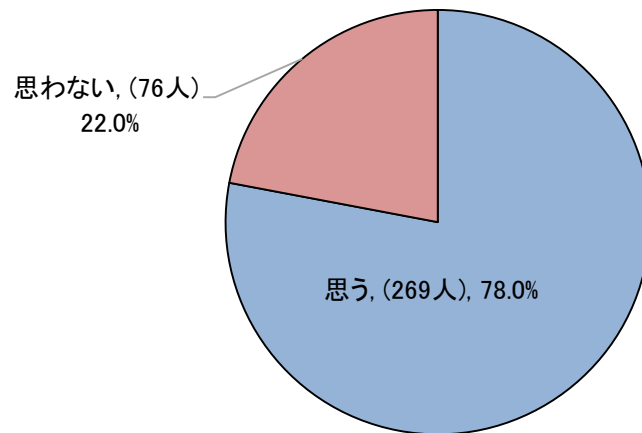


「その他」として寄せられた主な意見は次のとおりです。

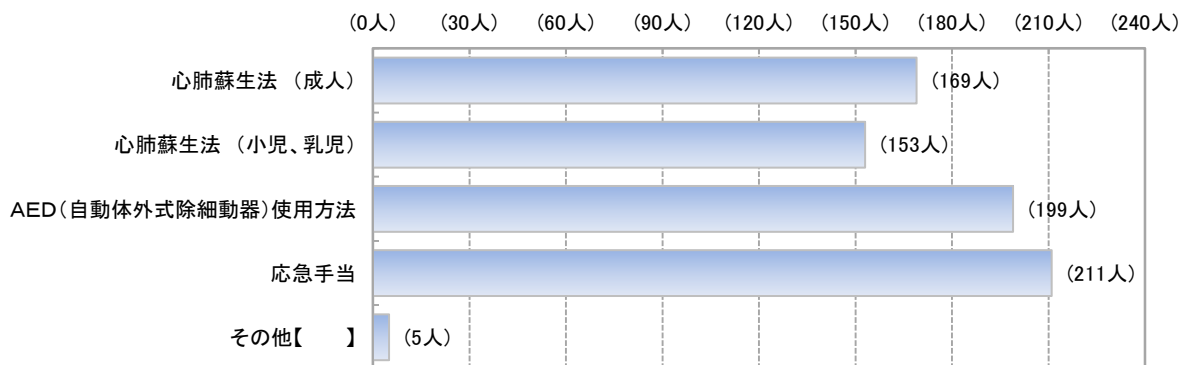
- ・消防以外での講習
- ・職場及び自治会での指導

○救命講習を受講したことがある方は、44.9%、その内普通救命講習又は、上級救命講習を受講したことがある方は 116 人に上りました。

[Q5]今後、救命講習を受講したいと思いますか。(単一選択)  
(n=345)



[Q6]救命講習ではどのような事を学びたいですか。(複数選択可)  
(n=269)



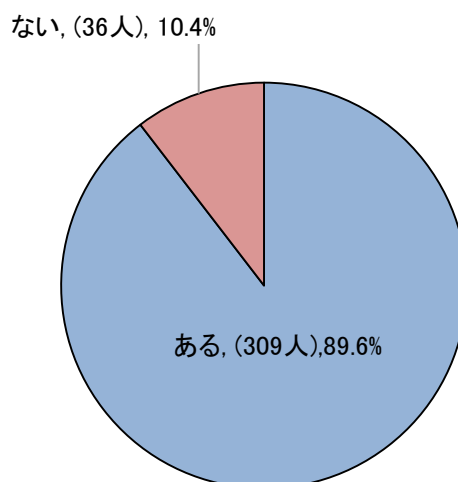
「その他」として寄せられた主な意見は次のとおりです。

- ・熱中症
- ・メディック・ファーストエイド(MFA)
- ・救急車両の呼び方
- ・助けを求める方法

○多くの方が救命講習受講に意欲をお持ちという事がわかりました。

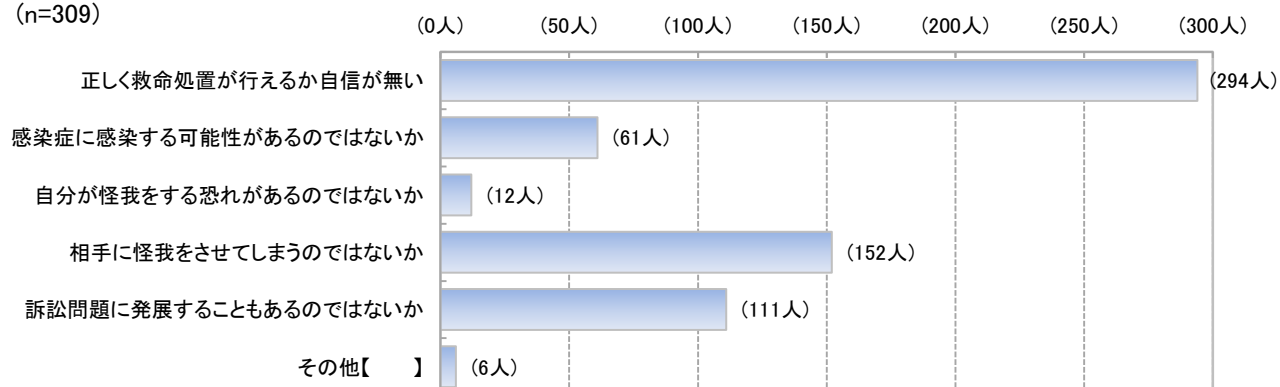
中でも応急手当にもっとも多くの関心がある事が伺えます。

[Q7]救命処置をすることに不安がありますか。(単一選択)  
(n=345)



[Q8]どのようなことが不安ですか。(複数選択可)

(n=309)



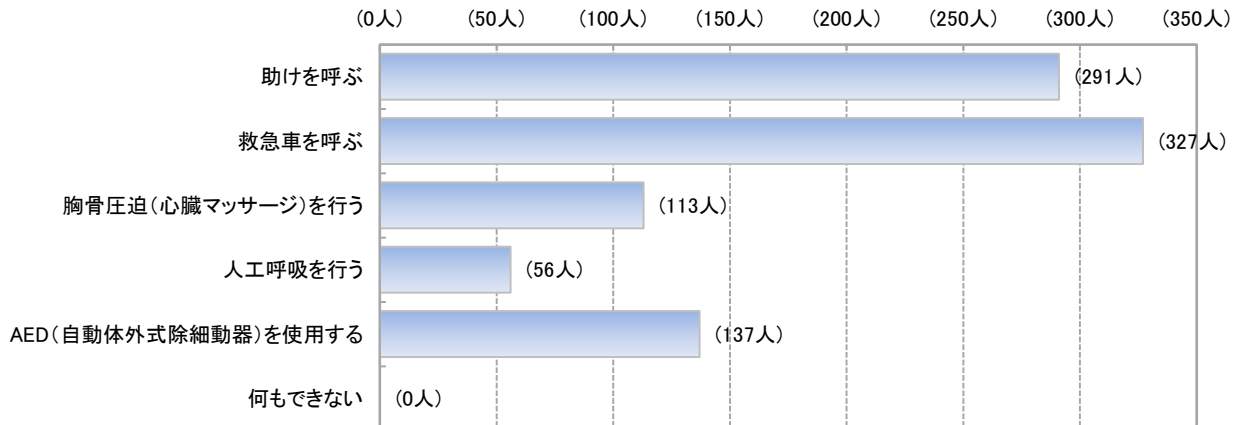
「その他」として寄せられた主な意見は次のとおりです。

- ・気が動転してしまいそう
- ・心肺蘇生法を忘れてしまった
- ・知識がない
- ・必要なかを判断できない
- ・体力に自信がない

○多くの方が実際に救命処置をすることに不安をお持ちということがわかりました。失敗を恐れて実行できないと感じている方が多く各講習での説明が必要である。

特に正しく救命処置を行えているか自信が無い、怪我をさせてしまうのではないかと考える方が多いです。

[Q9] 身近で心肺停止者が発生した時、あなたはこういった協力ができますか。(複数選択可)  
(n=345)



○救急車を呼ぶと答えた方が最も多く、救命に重要な胸骨圧迫やAEDの使用すると答えた方が、30%～40%と救命講習受講者の割合とほぼ一致しました。救命講習を受けた方は積極的に必要な処置を行う傾向があることが伺えます。このことから、救命率の向上には、救命講習を多くの方に受講頂くことが不可欠であります。

[Q10] その他応急手当の普及啓発について、ご意見がございましたらご記入ください(自由記述)

- ・実際に応急処置の現場に遭遇したら自分は救急車を呼ぶことくらいしかできないと思う。だから自分でも応急手当ができるように講習会には積極的に参加したいと思います。
- ・今まで必要性を感じていなかったが、機会があれば講習を受けてみたい
  - ・心臓マッサージやAEDの使用など体験していざというときに落ち着いて対処できるようになりたい。
- ・定期的に講習を受けることは必要だと思っています。
- ・救命講習の回数を増やして、都合がつきやすいようにしてほしい。
- ・土日の短時間に開催してほしい
- ・以前から興味がありましたがまだ受講できていません。日曜の午前中だけでなく、午後、平日などの日程も組んでいただけたらうれしいです。
- ・一度講習を受講しても一年に一度は最新の講習を受けないと時代遅れになりそうだ。
- ・受講してみて、1度や2度ではなく何度も受けて自分のものにすることが大事な事かと思いました。
- ・身近に応急手当の設備や備品を目にする機会を増やす工夫が必要かと思う。
- ・AEDが設置されているのをよく見かけます。使用方法を気兼ねなく習う方法があるといいと思います。
- ・定期的に講習を受ける機会がないと知識など、忘れていくので是非参加しやすい環境を整えてほしい。シフト勤務者の街だから曜日に関係なく参加できるように。

- ・もっと頻繁に気軽に参加できると普及率が上がるのではないかと思う。献血のような雰囲気。
- ・公園や駅などたくさんの方が集まる場所、駅前のスカイタウンなどでデモンストレーション講習をしてほしい。また、AEA の場所の地図や備え付けがありそうな場所を教えてくださいと嬉しいです。
- ・自宅近くの施設での講習、啓発をもっと増やして欲しい。
- ・団地の集会所で巡回講習を行う。講習を受けた人が助手となり、消防士の下で繰り返し行う
- ・現役時代会社で AED 講習を受け、また去年は自治会で避難訓練をした後、消防署の協力により全員 AED 講習や消火訓練を実施した。
- ・子供の関係で一度教えて貰ったが、とても役に立ったので、学校等、色々な場所で教えて貰える機会があると良いです。
- ・所属企業で実施しております。
- ・子供がいると講習の受講もなかなか難しいので、講習の際に託児サービスがあると助かります。
- ・子供がいると、単身での講習受講は難しいので、子供と一緒に参加出来る機会があってそれをお知らせしてくれる機会があると、参加する意識が高まると思います。
- ・とても難しい問題ですが、啓発を、とにかく長く続けていくことが大事なのだと思います。このアンケートで考えるきっかけを頂きました。ありがとうございました。
- ・以前三里塚コミュニティーセンターのなかよし広場で、消防隊の人が AED の講習会を開いていたところにたまたま参加して初めて AED の使い方を学びました。とてもよかったです。
- ・救命救急の講座を職場で一度受講したことがあるが、一度の受講ではいざそのような場面に遭遇した時とっさに応急手当できるかわからない。かといって、何度も救命救急講座を受けるとはならない。
- ・とにかく、応急処置について何も知らない。間違った対応をしないかが不安になる。最悪、死につながるからな。救急車の正しい呼び方を教えて欲しい。
- ・一般の人は、応急措置が必要なのか否かを判断できない。必要があると思って手当をしたにも関わらず、不要だったと判断される可能性があると思うと、積極的にかかわれない。
- ・訴訟問題が心配です。
- ・救命が原因のケガなどに対して訴訟を起こせない法律とか出来れば、もっと救命出来る人は増えると思う
- ・実際、心臓マッサージや AED 等の対応を実施した際にそれをしたことによって悪化した""等の問題が起きた際はどうなるのか周知してほしい。どれだけ講習を実施しても不安しかない。
- ・おおよその知識はあるつもりでも、確実性があるかどうか、自信がない。滅多にあることではないが、自分が関わって相手のかたが亡くなってしまった場合等、トラウマになるのではないかと心配。
- ・救命措置のハンドブックの配布物が欲しい。
- ・保育士現役の頃は定期的に救急法を学んでいましたが、やらないと忘れてしまうので資料など頂けるといいと思います。
- ・起きては欲しくないが覚えておきたいとは思っています！
- 子供やお年寄りなどの助けになれば
- ・時間がないので、なかなか参加するのは難しいと思います
- ・私は後期高齢者であり、消防署主催の講習に参加することに気おくれがします。体力的、機敏性にも衰えがあり不安があります。
- これらを拭い去ることができればと思っています。

・講習会となると大体AEDの講習が多く感じます。より頻度の高い怪我や熱中症等に対する応急処置の方法も教えて欲しい。

・救急電話 119 番を掛ける事は、殆んど経験できません。救急救命の講習時に、実際のやり取りを体験する事で、よりの確な対応が出来るのではと思います。(消防の消火器操作訓練での「119 番連絡」は、意外と身についていており実際の 119 コール時に活かされました。)

・多くの人が必要を感じなければ、普及は進まないと思われる。身近で起きうる具体例や体験談を盛り込み、救急方の習得が必要と坎じる機会、場の提供が必要。

・幼い子が喉を詰まらせた場合が不安なので、万が一の対応法を教えて欲しいです。

・応急手当をする場合の基本的な心構えを教示していただきたい。

・応急手当の必要性をもっと身近で、わかりやすく理解してもらふ必要があると思う。例えば、大きな災害が起きたとき、救急車が来た時間はこのぐらゐ、来ることができなかつた割合はこのぐらゐ。だったら、身近な家族・友人・近所の人命をつなぐのはあなた、そのとき何ができるのか。具体的にはこのようにして下さい。など。

・一度受講しても、時間が経つとやり方を忘れてしまうと思う。

・定期的に繰り返し受けられるような制度をつくってほしい。テレビなどで、五分でもいいのでやり方を毎週流すなどすれば、目に入るので覚えやすい。

すべての市民に最低限の現場対応を期待できる教習というものを徹底的に検討してもらいたい。

・免許の更新時に応急手当の講習を取り入れたら良いと思っています。

・危険物取扱主任者、酸欠、の資格を持っています。講習 試験の時は、それなりに自信がつかましたが、時が過ぎると、忘れがちです。自己啓発には限界があり、経験することもなく、結果として 遭遇したとき処置を施す自信はありません。応急手当の普及は一過性になりがちです。携帯で連絡するのが、私にとってベストであると、考えています。

・AED の使い方訓練で胸骨圧迫は本当に力が要り大変だったし、結局できなかった。また、一年に一度などでは扱ひ方も忘れてしまうので難しい。事故が発生した時、唯一できそうなのは、救急車を呼んだり身近な人に助けを呼ぶぐらゐしかできないと思う。

・保育園教師から高校教諭までの採用条件の必須事項として、上級救命講習の受講を義務付けること及び区長及び副区長全員に受講を義務付けることが、普及のカギとなる。

・小さい頃から救命に触れていれば今の大人よりも積極的に救命に関われる人間が育つのではないか。

・幼稚園や学校など、保護者向けに講習をすれば良いと思う。。・今回アンケート求められるまで、救命救急へー市民として何かかかわれるという意識がなかつたことに気づきました。学校教育の授業に組み込むなども必要かもしれません。

わざわざ講習だけを受けに行くというのは、よほど志の高い人ではないとハードルが高いと思うので、イベント、祭りの会場など集客がもともとある場所での出張講習が良いきっかけになると思います。

・イオンモールでブースを開いていたのを目撃したが、いいことだと思う。心臓発作が起きやすい冬場などにも行えばいいのではないか。

・一般の人が応急手当をすることがいいことだとは、思いませんが、他に手段がなくてやむを得ず行うために習うことなので、普及啓発をする前に、一般の人に頼らない、駅的人员を活用するとか、商工会議所に普及を頼むとかできると思います



- ・心臓・脳の障害は時間との戦いであり、消防署と遠距離の住民にとっては「共助」が特に重要。
- ・応急手当は、かなりしっかりした講習会をしていただかなくては困難だと思います。また、どのくらいの講習(期間など)を受講すれば、それなりの技術が身につくのかの情報もほしいです。
- ・公共の場所で働いている人は、講習を受けてほしい。その為に普及啓発を頑張ってもらいたい。
- ・いざというときには思うように動けないもの。応急手当の難しさはそこにあると思います。
- ・感染防止の為、人工呼吸は行わないようにもっと広く啓蒙すべきだとも思います
- ・AED の使い方、設置場所をより広報していただくとうい
- ・私は医療関係者なので応急手当はわかるが、なかなか参加せずにわからない人が多いと思う。町内単位、クラブチーム単位で受講させるなどの方法も良いのでは？と思う。
- ・学校や公民館のAEDを休日でも利用しやすく。
- ・AED の設置場所は増えてきているということは聞いたことがありますが、いざというとき設置場所が思い浮かばず動揺して忘れることがあるので、店舗の入り口付近の設置等、配置場所の共通化がよいのかなと思いました

AED は各メーカーの販売時期、機種により操作方法及び対象年齢など異なる為、医療従事者でもよく理解していない場合がほとんどです。

市内すべての AED の機種を統一するのも救命率をあげる方法だと思います。

- ・緊急時対応の連絡先と AED の所在場や応急処置方法が書かれた看板をどこから見てもわかる様に、大きすぎると思われるほどの大きなサインを張り出す。
- 場所が多ければ多いほど良いと思います。
- ・広報なりたで写真を使った応急手当のやり方などを掲載する
- ・広報などで、受講した人の意見をのせてはどうか
- ・講師資格を設けあらゆる機会を通じ広める

#### ～担当課のまとめ～

一般市民に AED の使用が認められ 12 年が経過し、機器も広く普及しております。一般市民の AED 使用率は過去 5 年で約 1.5 倍に増加し市民にも定着しつつあります。現在の救急情勢は、高齢化の影響もあり救急出動件数が年々増加しております。それと比例し、救急車の到着時間も遅延している状況です。救命率の向上には現場に居合わせた方の協力が不可欠です。

今回のアンケートでは、応急手当について市民の方の高い関心が寄せられていると同時に、処置を行うことに対して不安を抱いていることが分かりました。このことを踏まえ消防本部では、講習内容を見直し、更に応急手当の普及事業を促進してまいります。